

水夢から交流と学びの贈りもの 第1回レガロフェスタin水夢

REPORT 4



▲アクアエクササイズ

西城温水プール水夢を地域住民の健康維持や体力づくりに役立ててもらおうと6月3日、「第1回レガロフェスタin水夢」が開催され、200人を超える参加がありました。館内では、ヒップホップダンスやアクアエクササイズ、県立広島大学庄原キャンパス水泳部によるパフォーマンス

ス、住民も参加してのベビースイミングなどが行われ、館内は歓声と拍手が響いていました。そのほか、アロマオイル作り体験や庄原消防署西城出張所による水上安全教室なども開催。また、水夢横の芝生広場では「水夢バザール」が設けられ、西城ならではの食のもてなしが大好評でした。

実行委員長の堂本時和さんは「レガロとは贈り物という意味。交流し水に触れ合う楽しみを水夢からの贈り物として届けられた。水夢を幅広い交流と学びの拠点にしていきたい」と話していました。



▲水夢バザール

まちづくりへの期待を胸に渡り初め 比和まちなか大橋開通

REPORT 5



▲園児たちも渡り初め

参加。たくさんの拍手に包まれての開通となりました。「比和まちなか大橋」は総延長27.5m、全幅10.25m。生活面での利用だけでなく、福田頭やあけぼの荘へ

国道432号線から西城町を結ぶ県道西城比和線「比和まちなか大橋」が5月31日に開通し、渡り初め式が開催されました。当日は、完成を待ちわびていた多くの地域住民が式典に参加。

も観光客をいざない、新たなまちづくりへの架け橋として期待されています。

橋を訪れた比和保育所園児21人も、橋の手前の交差点で交通ルールの講習を受けた後、渡り初めに参加。「新しい道のおいがする」「きもちいい」と感想を話しながら、真新しいアスファルトの感触と橋から見える比和川の景色を楽しみました。



旬をおいしくいただきます 山の幸・野の幸を味わう会

REPORT 6

総領の旬を味わう「山の幸・野の幸を味わう会」が5月15日、総領健康福祉センターで開催され、町内から18人が参加しました。これは、地産池消を進めている地元のグループ「旬菜食堂グループ」が、地元食材とそれを有効活用する方法を広く知ってもらおうと開催したものです。当日は、総領産のたけのこやふき、ぜんまいなど13種類の旬な食材を使って、煮物、和え物、茶碗蒸しをみんなで調理しました。参加者は出来上がった料理を味わいながら、「山菜を

使った料理をするのは初めて」「参加者それぞれの味を知ることができた」「色々な人と交流できて楽しい」などと会話を弾ませていました。



▲楽しく調理する参加者の皆さん

山に触れ、山を知り、山を楽しむ一日 ひろしま「山の日」県民の集い

REPORT 1



▲クラフト教室を楽しむ親子

第11回ひろしま「山の日」県民の集いが6月3日、県内11会場で開催されました。これは広島県が主催するイベントで、6月の第1日曜日を「ひろしま「山の日）」として、山の手入れや体験型の多彩なプログラムを取り入れた集いを毎年行っています。庄原会場となった「板橋さとやま学びの森」では、地元

の板橋一心太鼓と永江太鼓の競演を皮切りに、木を使ったコマやネックレス作りなどが楽しめる森のクラフト教室、NPO法人七塚原自然体験活動研究センター理事長の西村清巳さんによる野草の自然観察会などが行われました。また、ペレットストーブやペレット調理器具の展示が行われ、その調理器具で焼いたピザが来場者に振舞われました。参加者は「よく手入れされた森林の中で心地よい1日が過ぎた」と喜んでいました。



▲自然観察会のようす

こらじ 糎づくりのプロがレシピを伝授 古式の農事で塩糎づくり体験

REPORT 2



▲塩糎づくりに挑戦する参加者

『糎屋熊本さんに教わる糎レシピ体験』が5月30日、食彩館しょうばら ゆめさくらで開催されました。これは、昨年開催された「庄原さとやま博」の体験メニューを「next庄原さとやま博 もっとステキに輝き体験」として新たにメニュー化し、昨年度から継続の“古式の農事”企画として実施されたものです。この日は、福山市などから16人が参加し、この道60

年の経験をもつ「熊本糎店」熊本洋子さん(川北町)から、いま話題の塩糎や甘酒、即席糎味噌づくりを教わりました。また、糎を使った漬物や炒めものなどの試食会も行われました。参加者は「すぐに家庭で実践できるように教えてもらった」「熊本さんの説明がとても分かりやすかった」と喜んでいました。熊本さんは「糎づくりを通して参加者の皆さんと楽しく交流できたことが良かった」と話していました。



上達の道はあきらめずチャレンジ フライングディスク教室

REPORT 3

口和町福祉協会が主催する第1回フライングディスク教室が5月24日、口和自治振興センターで開催されました。フライングディスクは直径約20センチの円盤状のディスクを投げてゴールしたり、投げたディスクの距離を競ったりと、いろいろな競技があり、正確にディスクを投げるのが求められる競技です。町内から参加した7人は、スポーツ交流センターおりづるの指導員から、ディスクの投げ方や、ゴールを通過させるコツなどを教わりました。5~7m先の直径91.5cm

のゴール枠を通そうと何度もチャレンジ。初めはディスクが左右に流れ、なかなかゴールできませんでしたが、繰り返しチャレンジし徐々に上達。ゴールしたときには笑顔がこぼれていました。参加者は「久しぶりに体を動かす、いい汗をかいた。また参加したい」と汗をぬぐっていました。



▲投げ方のコツを学ぶ参加者

